

ホットライン

ノルウェー国際問題研究所（NUPI）における公開セミナー

2011年2月24日（木）10:00－12:00

場所：NUPU、オスロ

司会：Iver Newmann, Director, NUPI

日本側参加者

神谷万丈	防衛大学校教授
佐藤考一	桜美林大学教授
鶴岡路人	防衛研究所教官
福田 保	日本国際問題研究所研究員
横川和穂	日本国際問題研究所研究員

【日本側報告 1】

中国は東シナ海や南シナ海などにおける自らの排他的経済水域を決める際に、とくに資源を中心とする自らの権益を確保するために都合よく境界を主張しており、そのことが日本との尖閣諸島をめぐる対立をはじめ、周辺国との間で問題を引き起こしている。また、中国の海軍は最近空母などの装備を増強しているほか、太平洋への進出など活動範囲も拡大している。こうした中国のアジア海域での台頭を踏まえ、東アジアの安全保障アーキテクチャは、第1に ASEAN をベースとした協力、第2にアジア各国とアメリカとの同盟を軸にした協力という、2つの柱を軸に発展していくべきであろう。

【日本側報告 2】

日米、米中、日中の二国関係は、正三角形ではない。日米は同盟国である、3つのうちで最も発展している二国間関係である。次に米中関係である。米中関係は現在、最も安定的である。米中関係は競争的側面もあるが、両国とも経済関係を最重要視しているため、協調的關係が強調される。対立や衝突があっても戦争に陥ることはない。しかし、米中はお互いをまだ信頼しきっていないため、日米関係ほど緊密になってはいない。最も発展していないのは日中関係である。日中には歴史問題があり、これがしばしば日中緊密化の障害となっている。日中は現在、東アジアにおけるリーダーシップ争いを行っている。中国が ASEAN 諸国と FTA を締結すると、日本は対抗するように ASEAN 諸国と FTA を締結した。しかし、リーダーシップ争いは協調を促進する面もある。日中が FTA をアジア諸国と締結したことによって、アジアにおける経済統合が進展した。このように、ポジティブな影響も地域に与えている。

日米中関係を見ると、六者協議のような3カ国が協調する場合もあるが、「日米対中」といった構図ができていく。北朝鮮核問題、尖閣諸島漁船衝突事件など、日米は立場を同じにし、中国とは異なる立場をとる。日米は中国の軍事的目的や軍事近代化が不透明であることに懸念を抱いており、中国が軍事的増強を行うと日米は安全保障協力を強化するといった、日米と中国の間に安全保障ジレンマが見られる。

【日本側報告 3】

日本と欧州の安全保障分野での協力は、二国間ではこれまでも蓄積があり、日本と EU との間でも市民活動を中心に可能性がある。日本にはアメリカ以外にもパートナーが必要で、EU がそうなり得るが、日本と EU の間に公式の協力枠組みがないのは問題である。EU のアジアでの役割を日本人の多くが認識していないこと、また日本ではアメリカ第一という考え方が根強いことなどが、さらなる日・EU 関係の発展の障害となっている。EU のアジアにおける戦略的利害を明確にしてもらいたい。日本と EU は、中国の台頭をいかにマネージするかという点で協力できる。例えば海上の安全保障は海賊だけでなく海上交易にも関わる問題であり、欧州にとっても重要であろう。

日本とノルウェーの共通の関心事項は何か。両国は共通の巨大な隣国を持つ。ロシアである。日本とノルウェーは、ロシアという大国にいかに対応すべきか、今後協力ができるのではないか。